

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度 病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

病害虫発生予察 注意報第5号

- 1 農作物名** カンキツ, ナシ, カキ
- 2 病害虫名** 果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ）
- 3 予報内容**
 - （1）発生地域 県本土・熊毛地域
 - （2）発生量 多
- 4 注意報発令の根拠**
 - （1）予察灯への誘殺数が8月中旬から増加しており、出水市Ⅱの予察灯では、9月第1半旬にツヤアオカメムシ2,942頭（前年181頭）、チャバネアオカメムシ4,970頭（前年289頭）が誘殺された。また、その他の地域の予察灯でも、9月第1半旬の誘殺数が増加している（図1）。
 - （2）日置・北薩地域では、カンキツ, ナシ園への飛来が認められ、一部のほ場では被害が確認されている。
 - （3）ヒノキでの寄生密度は、7月下旬以降、前年に比べてかなり高く推移し、9月上旬では、2種の成・幼虫の合計虫数が45.6頭/地点（うち、成虫37.3頭）で、8月下旬の33.8頭/地点（うち、成虫23.2頭）に比べて寄生密度がさらに上昇した（図2）。
 - （4）9月上旬のヒノキ球果口針鞘数（吸汁痕数）は、21.1本/果（前年21.7）で8月下旬の11.3/果（前年17.1）に比べて急増しており、離脱の目安である25本/果を越えた地点が多くなった（表1）。
 - （5）以上の結果から、果樹カメムシ類のヒノキからの離脱と果樹園への飛来の増加が予想される。
- 5 防除上注意すべき事項**
 - （1）カメムシ類の飛来は地域間差, ほ場間差があるので、園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。収穫期を迎えている極早生温州やナシ園では特に注意する。
 - （2）山林（ヒノキ, スギ）に近い果樹園ほど飛来数が多くなる傾向があり、特に、防風樹としてヒノキを植栽している園地では注意する。
 - （3）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の発生を助長するので散布後の発生に注意する。また、散布後の園内の飛来状況を見極め、二回目以降の防除を実施する。
 - （4）薬剤のかかりの悪い場所へ集中的に飛来する可能性が高いため、薬液が樹全体にかかるように丁寧に散布する。
 - （5）防除に当たっては、薬剤の使用回数・時期を厳守し、収穫開始予定日を想定して農薬を選定する。なお、近くに収穫前の樹がある場合は、飛散の恐れがあるので適切な農薬を選択する。

(参考資料)

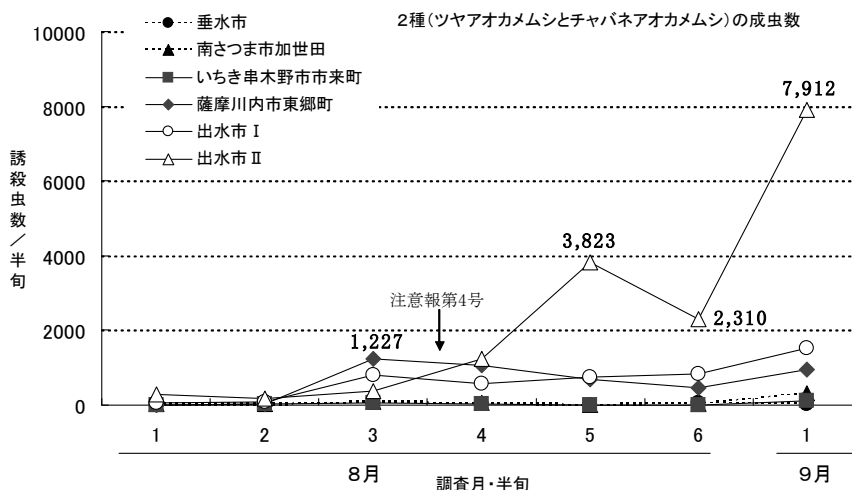


図1 予察灯におけるカメムシ類（2種計）の誘殺数（平成22年）

注）薩摩川内市東郷町：予察灯故障のため、9月4～5日2日間の誘殺数

出水市I：H9に設置した横置光源トラップ(光源高約1.5m)

出水市II：H21に設置した縦置光源トラップ(光源高2.7～3.8m)

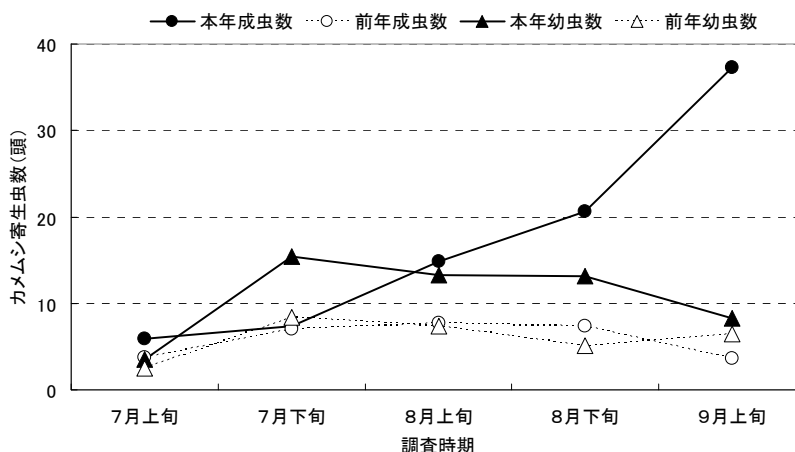


図2 ヒノキでのカメムシ類（2種計）の寄生虫数

表1 ヒノキ球果の口針鞘数の推移（1果当たり）

調査場所	調査時期				
	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬
いちき串木野市1	0.3	0.7	0.7	20.1	21.7
いちき串木野市2	0.2	3.4	8.9	10.0	21.0
薩摩川内市東郷町	0.1	0.3	0.7	3.7	16.8
さつま町	0.2	1.0	1.5	9.8	21.6
阿久根市	0.2	1.4	1.5	7.1	25.5
出水市高尾野町	0.1	0.4	0.6	8.5	17.2
出水市1	0.1	2.2	0.7	15.5	28.7
出水市2	0.2	3.7	6.5	12.0	27.8
出水市3	0.1	1.5	3.5	10.0	23.2
霧島市溝辺町	0.3	0.4	6.0	17.5	25.1
垂水市	0.1	0.6	0.6	5.4	8.2
南さつま市加世田	0.2	0.6	6.2	15.9	17.3
平均	0.1	1.3	3.1	11.3	21.1

注) 1. 球果採集日：平成22年7月5～6日（上旬），7月20～21日（下旬），8月2～3日（上旬）

8月17～20日（下旬），9月1～3日（上旬）

2. 口針鞘数（吸汁痕数）が約25本/果がヒノキ樹からの離脱の目安